

岩手自治

二十一年



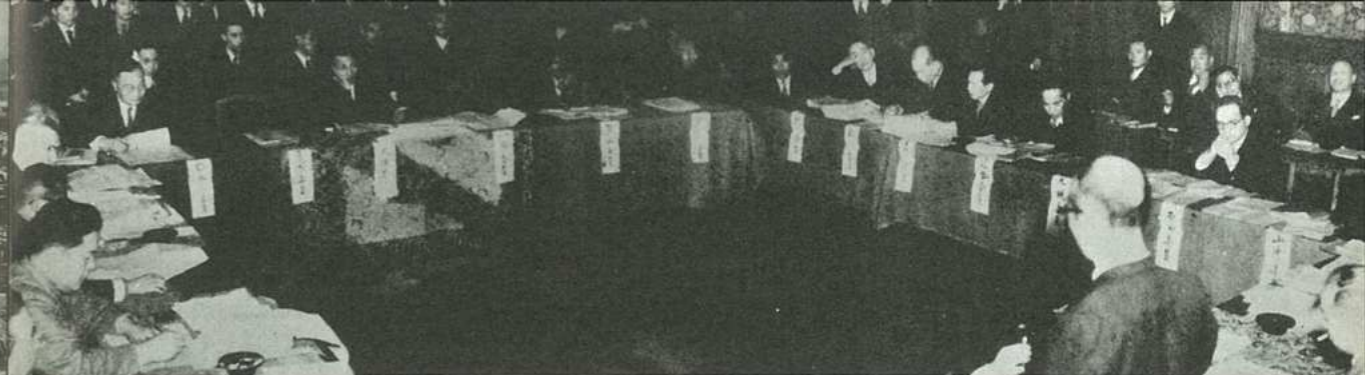
⇩ 初代公選知事として郷土の発展と民主化に大きな足跡を残した故国分謙吉知事（昭和22年～29年）写真は「ワラジばきの県庁」をモットーに初登庁した在りし日の姿。＝写真は岩手日報社提供＝



⇒ 総合開発の礎石づくりに努力した阿部千一前知事（昭和三十年～三十七年）写真は自治法十周年記念事業として開かれた「自治総合展」に見入る同氏。



⇐ 「県民に直結した県政」を標ぼうし、大県づくりに意欲的に取り組む千田正現知事（昭和三十八年～現在）写真は肉牛王国をめざして輸入されたハーホードを横浜検疫所で迎える同知事。＝写真は岩手日報社提供＝



↑ 学制改革も大きな変動のひとつ。一口に6・3・制度といわれる新制度の中には学校給食のめざましい普及も見逃がせない。健康で明るい岩手の群像がここから育っていく。＝写真は岩手日報社提供＝

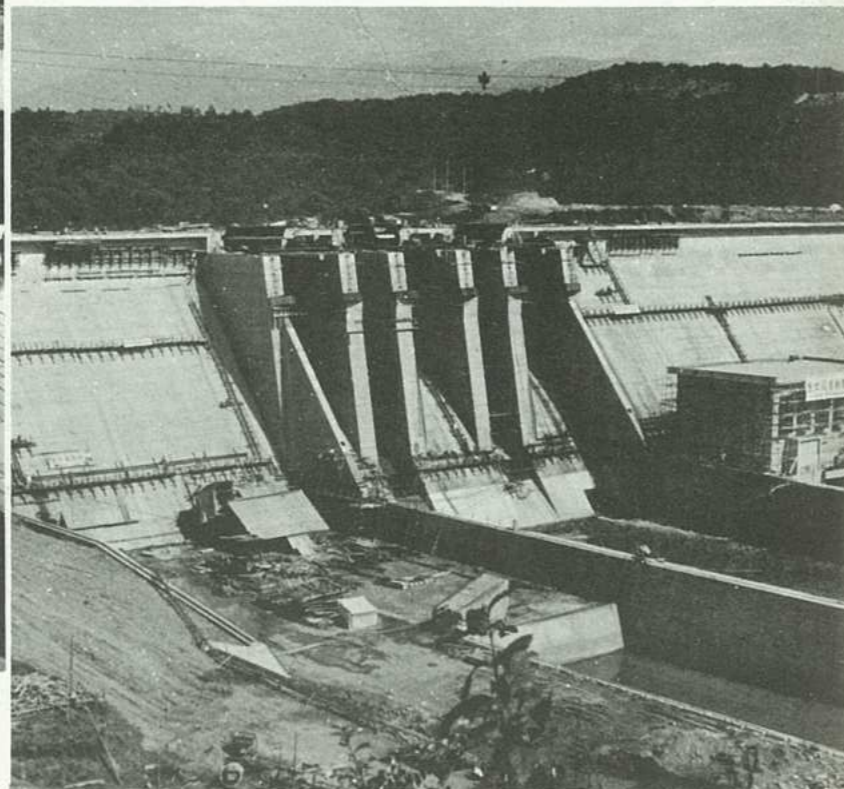
↑ 岩手自治20年の歩みの中には、数次に及ぶ大災害も忘れ得ぬもの。今でこそその傷跡もいえたが、死者55名・被害総額98億円を出したチリ地震津波もそのひとつだった（昭和35年5月）
＝写真は岩手日報社提供＝

↑ 町村合併によって岩手の地図は大きく塗り変えられた。写真は合併計画を策定審議した県町村合併審議会の審議風景（昭和29年2月）

↓ 新市町村の誕生にも陣痛はあった。写真は境界変更について陳情する陳情団（昭和30年3月）



↓ 岩手の県政20年はそのまま建設の年譜でもある。治水・発電・かんがいなどの多目的ダム群が次々とその威容を見せ、岩手の山峡は一変して新観光地に脱皮していく。写真は完成直前の四十四田ダム（昭和42年10月）
＝写真は岩手日報社提供＝



↑ すべて県職員と市町村職員の手によって制作・準備され、県民の耳目を集めた自治法10周年記念・地方自治総合展（昭和32年9月）

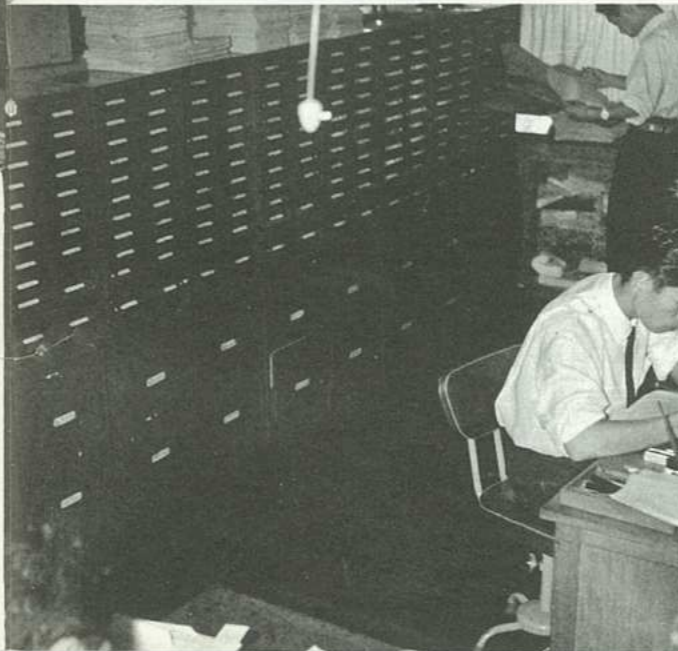
↓ 行政事務の近代化も唱えられ、各地で事務改善が進められた。写真はその先駆となった北上市役所内の一部。（昭和34年4月）



↑ 10年前の新郷土建設運動で提唱された「明るい岩手づくり」は、今また岩手国体への合ことばともなっている。地域住民と接触する市町村役場はその実践の窓口でもある。



↑ まる「こわいおまわりさん」から「親しめる警察」へと警察制度もその装備・機能とともに大きく変わった。写真はその象徴のひとつとも言える県警音楽隊。スマートな装いは広いレバ音隊とともにも県民からたいへんな好評を受けている。



↑ 合併は自治体の行財政能力を増大させたが、それとともに役場庁舎の新築も進み、住民サービス場の場の拠点となった。写真は全全国的にもめずらしい江刺市の円形庁舎（昭和三十六年建築）

